

令和4年度第4回滝沢市上下水道事業経営審議会議事録

I 日 時 令和5年1月25日（水）13時30分～16時30分

II 場 所 滝沢市役所分庁舎 第6会議室

III 出席者 上下水道経営審議会委員 出席7名

（※欠席2名 田村康樹委員、関晴恵委員）

【滝沢市上下水道事業経営審議会委員】

山田一裕委員、宮沢一正委員、齋藤誠司委員、田村武委員、熊谷稔委員、  
新田育夫委員、赤塚貴史委員

【滝沢市】

上下水道部 部長 及川竜悦

水道総務課 課長 小林純子、総括主査 高橋竜也、主任 関向洵樹

水道整備課 課長 角掛雄一、総括主査 長谷川唯倫、総括主査 林野和恵

下水道課 課長 古前田聡、総括主査 黒澤滋

IV 次 第

1 開会

2 挨拶

部長挨拶、委員及び事務局の紹介、配布資料の確認

3 議事

（1）議事録署名人の指名

会長より、議事録署名人に宮沢一正委員、齋藤誠司委員を指名した。

（2）報告事項

以下①の報告事項について事務局から説明し、これに対し質疑応答があった。

①アセットマネジメント成果報告について（下水道事業）：下水道資料1

【赤塚委員】維持管理情報の中で施設は管路以外に下水道処理施設は入るか。

【下水道課長】施設としては、管渠・マンホール・ポンプ施設（29箇所）があり、  
それを含めた維持情報となっている。施設はそれ以外に持っていない。

【山田委員】滝沢市は流域下水道で盛岡市にある下水処理施設に委託をして処理を  
してもらっているのでも下水処理場のような施設はなく管理する必要はないが  
その代わり手数料を払っている。

【齋藤委員】耐用年数の考え方について、過去の下水道事業の経緯から部分的に劣  
化しているものもあると思うが、理論的な耐用年数のみで考えるだけでなく現  
実的な状況を勘案しながら少しでも早く着手していく必要があると思う。

【下水道課長】緊急度の高いものをピックアップしていくことが最重要である。現段階では部分的に悪いところは調査して直しているが、広い面で見えていないため、そこをどう構築するかというのを当てはめていかなければならない。また、標準耐用年数は管渠が50年であるが、想定耐用年数を70年で設定しようと考えている。どこが健全なのかがわかっていない状態なのでそこも調査をかけなければいけない。ポンプについては耐用年数15年であり29箇所あるため毎年1～2箇所交換して回していくということでやっている。まだアセットマネジメントが策定されたばかりではあるが、2, 3年のうちに可能な計画を立てれるように持っていきたいと考えている。

【齋藤委員】管路そのものは丈夫だと考えられるが、継ぎ手の部分（マンホールと管を繋いでいる部分や取出し管と管を繋いでいる部分）について過去の工法は接着剤を用いているため侵入水の原因になっている可能性が高いためそういった部分も考えたうえでやっていくのが良いかと思う。

【下水道課長】順番に改築していけると一番いいが、現段階で耐震化も進んでいない状況のためマンホールの継ぎ手を可とう化するとか順に進めていかないと大震災が起こった場合などやっていけないためそこも併せて計画に盛り込んでいきたい。

【熊谷委員】改築・更新ということであるが新規はないのか。

【下水道課長】新規は含まれていません。

【熊谷委員】別の計画で新規の予定はあるか。

【下水道課長】現状で、事業計画・全体計画・汚水処理実施計画があり、右肩上がりで整備していく予定を立てていたが、計画通り整備を進めると完了までに40年以上かかる。40年以上かかると改築の想定耐用年数も超えてくるので新しく改築するためにお金と人を回せなくなってしまう。そのため整備は人口密度や費用対効果もあるがやれないところはやれないという結果を出さなければ改築ができないので今後改築計画を煮詰めた時には整備の計画はほぼないと考えられる。ただ、どれだけ費用負担しても欲しいということであれば整備や維持はできるので皆さんにどうするか聞かなければならないと考える。

【山田委員】過去に審議会では不明水の問題を取りあげたことがあるが、モニタリングとか傷んだ箇所の早期発見とか維持管理にかかる経費も嵩んでくるだろうと思うので、そういったものも盛り込んだ計画をアセットマネジメント実施に向けて準備していただければと思う。

【新田委員】滝沢市の下水道では、矢巾町の処理場までもっていくのか、途中の地区で曝気装置を作ってきてきれいにして雫石川に流しているのか大枠としてはどのような形でやっているのか。

【下水道課長】盛岡・滝沢・雫石・矢巾の公共下水道はすべて都南浄化センターというところに運ばれて処理されている。滝沢市の管には、滝沢市が公共下水道として布設した管が200km、それ以外に流域下水道の管が走っておりその管に接続して都南浄化センターまで流している。流域下水道についても施設が古くなるとそれ相応の負担をして直しているため、そちらも県に長期の計画を出し

てもらわないと、どれぐらい費用がかかるかわからないためゆくゆくは負担にはなってくる。

【山田委員】以前、審議会で都南浄化センターの見学に行ったことがある。

また機会があれば下水道施設関係の見学会も計画いただければ理解が進むと思う。

【下水道課長】ここ3年、コロナで都南浄化センターの見学が実施されていないので再開できれば折を見てご相談したい。

【新田委員】各自治体で都南浄化センターのような処理場を作るなど考えられるが広域で処理しなければならない法律などあるのか。

【上下水道部長】法律にはないが、市町単独で処理場を持っていると非常にお金がかかる。県が管を通して各地域の汚水を流せる仕組みを作ってくれたのでそこに参加して相応の費用負担をすることとなっている。

#### (4) 審議事項

以下①の審議事項について事務局から説明し、これに対し質疑応答があった。

① 滝沢市水道事業ビジョン及び、滝沢市水道事業中期経営計画（前期）の策定に関する答申（案）について：水道資料1～4

・水道事業ビジョンについて

【赤塚委員】ビジョン79ページの広報についてはこのとおりで良いと思う。

【山田委員】用語説明も丁寧にまとめていただいたので、一般の方に読んでいただく上でも必要最小限の説明になっていると思う。

・中期経営計画（前期）について

【熊谷委員】中期経営計画8ページに「後送り」が1つ残っている。

【高橋総括主査】「繰越」という修正とさせていただく。

【赤塚委員】同じ8ページで、ただ「完了」と書いてあるところと「前倒→完了」や「追加→完了」という記載があるがすべて完了という理解で良いか。例えば上から4行目に「前倒→完了」がある。

【長谷川総括主査】いずれも完了したということになる。4行目の「前倒→完了」については4年度に実施予定だったものを3年度に実施したため前倒しして完了したという意味合いで記載している。

【山田委員】使用した言葉の意図について欄外に記載してもいいと思う。

【赤塚委員】同じく8ページで、完了・中止・休止すべてグレーの網掛けになっているので、完了については色分けしてもよいのではないか。

【長谷川総括主査】中期経営計画の前期で終わっているものについては黒っぽい網掛けになっている。

【赤塚委員】振り返りなので完了したものはアピールしてもよいのでは。

【高橋総括主査】今回の表は後期の評価であり、直近の4年間以外のものという意味合いでグレーの網掛けにしていた。完了だけだと前期か後期わからないので前期完了といった表現にさせていただく。

【山田委員】前倒という表現があるのであれば、前期とか何年度完了とか具体的な時期を指示したほうが理解はしやすいので、言葉の読み取りがバラバラにならないような表現としていただきたい。

いただいたご意見等については、軽微な修正で対応できそうなので修正については事務局にお任せし、状況によっては私のほうで確認した上で案を決めさせていただくということによろしいでしょうか。

【委員一同】異議なし。

・答申（案）について

【山田委員】丸で抜けている部分についての数字は決められるのか。

【水道総務課長】今日で決まれば日付等決定できる。

【赤塚委員】5ページに、給水区域編入の有無とあるが、編入する必要性があるという意味か、編入したいという意味なのか具体的にどのような意味か。

【水道整備課長】将来に向かって話合いをしていくという意味合いで記載しているが、現時点では向こうに合併の意思がない。

【山田委員】審議会の中でも出てきているが、設備の更新に入った途端、専用水道が回らなくなる可能性も危惧されているので早い段階で編入が可能となれば計画を立てて継続的に援助できるよう予算立てをしていかなければならなくなる。その辺は、情報を共有して確認しながら進めていく必要がある。また大事な水源でもあるので使っている方々の運営がだめになったから水源もだめになるということでは終わらせられないということが現在の状況である、と認識していただければこの文言の意味を捉えていただけると思う。

【水道整備課長】柳沢小中学校から282号線を通り4号線までの道路について道路改良工事を行っている。専用水道の管がその路線に入っており、かなり更新した。管が新しくなりしばらく布設替えは必要ないため合併する意思はないということである。

【山田委員】この文言について、結構強い口調に取れるので「編入の有無について今後も市の財政部局や地域住民との対話を継続されたい。」という表現ではどうか。

【熊谷委員】それについて、有無というのか。こちらが編入を進めようとしているのであれば可否とか。

【山田委員】「編入の意向について」だと相手にプレッシャーを与える表現を少し抑えた形になると思う。

【齋藤委員】2ページの2安定した給水を実現する強靱な水道の件について、他の項目に比べて表現が強いと感じる。特に、特定の金沢水源について廃止されたいという内容が強い。最後の一文はいらないと思う。

また、同じ文脈の中で、リスク分散のために河川水と地下水の併用をしてきたと書いておいて、地下水源に移行したとしても何らかのリスク分散は図っていかないといけないと思う。地下水源に切り替えたがリスク分散を図りながらという文字を入れつつ最後の文字を削るのはどうか。

- 【山田委員】金沢川の水源については、表流水を水源とした浄水場を残すか残さないかという議論に通じる話であり、そこまでは話してない。
- 【宮沢委員】私も同感です。
- 【上下水道部長】これまでの話し合いの中で、諸葛川水源の廃止については前期計画の段階で廃止となっていたものを廃止できなかった。前回の答申の段階で2箇所ある河川の水源のうち、1箇所については当期間内に廃止、それ以外についても廃止する方向で検討されたいと意見が付されていた。計画の中で諸葛川水源が明確に書かれていたので、それが実施できなかったというのを明確にするために諸葛川水源の廃止とし、残りは金沢川水源ということで提案させていただいた。
- 【山田委員】中期経営計画（前期）にそういう文言が入っていたか。
- 【上下水道部長】2箇所ある河川水源のうち1箇所については当期間内に廃止、もう1箇所については廃止する方向で検討されたいとある。諸葛川、金沢川という記載はないが、計画の中で（柳沢）低区浄水場の廃止とあったので、あえて具体的に記載した。
- 【齋藤委員】書き方の問題であり、部外者の営利を目的とした水源地買収や乱開発といったリスクを認めているため、リスク分散を図りながら徐々に廃止といった書き方が良いのでは。
- 【熊谷委員】リスク削減といっているが、以前、市全体の水の供給に比べて金沢川から取っている水がどれくらいリスクを削減してくれるのかという質問をしたことがある。これを読んでいて、そういう方向で行くんだ、あの時の話し合いが反映されていて良かったと感じた。
- 【宮沢委員】前回欠席したこともあり、答申（案）については、その際の議論で出た意見を反映しているのかと思っていた。計画書にも関係の文言がなく、我々が答申（案）のように訴えてきたという認識はなかった。
- 【上下水道部長】廃止の方向で検討されたいということで意見をいただいたと認識していたが。
- 【山田委員】依存する水量が小さいのと、表流水としてのリスクが高いため廃止する方向での検討はもちろんある。ただし、条件があり広域水道の接続管整備が進み地下水源1本に頼った場合でも、災害等発生した際、周辺自治体から滝沢市の水道の供給が守られることが前提となる。
- 【上下水道部長】それについては、必要な条件を整理した上でということに含んでいる。
- 【山田委員】廃止という言葉が強く示されているような感じがするので、条件を強く出してもらったほうが良い。金沢川の水源をいずれは廃止する方向にあるが条件としては広域連携や、リスクマネジメントとしてその他の条件が整っているかが必要となるがそれを盛り込む案が欲しい。
- 【上下水道部長】宮沢委員、齋藤委員からは最後の文言を削除するという意見があり、熊谷委員からは協議の内容を取り入れているという意見があった。また、会長からは書き方の問題だという意見をいただいたが修正の方向はどうする

か。

【宮沢委員】廃止の方向ということが前からの流れであれば、書き方の問題だと思う。

【山田委員】「本計画期間内に廃止するとともに、金沢川水源についても必要な条件を整理した上で廃止する方向で検討されたい。」が良い。

【水道総務課長】広域連携やリスクマネジメントの文言についてはどうするか。

【山田委員】「例えば～などの必要な条件を整理した上で」とするとなお良い。

【齋藤委員】「広域の推進など必要な条件を整理する」とすれば出された意見と合う。

【水道総務課長】整理すると、「金沢川水源についても」までは活かし、「廃止について検討するべきである」を削除して、その次に「広域との連携やリスクマネジメントなど」を追加することで良いか。

【山田委員】そうですね。

【齋藤委員】4ページの財政の健全化の中で、令和10年度以降5年ごとに料金改定を行うのであれば、料金の見直しに関する検討はその前から始めていなければならないと思う。例えば、数年に1回程度の割合で料金に関する見直しをこの審議会に諮ってもらいたい。

以前、審議会において4年に1回は見直しをする流れとしたが、それが薄れてきていると感じるので、答申に入れるかどうかは別だが、改めてその文章もいつかの時点で入れていただきたい。

【水道総務課長】中期経営計画は、財政シミュレーションを伴うものなので、できたタイミングで料金改定のシミュレーションを行っている。シミュレーションと実際の決算では異なるが、幸いにも給水収益が落ち込んでいないのですぐに料金改定しなくても経営は安定している。料金改定の検討は行っているが改定まで至っていない状況である。今回も料金改定まで行う案があったが、アセットマネジメントの結果だけでは料金改定の根拠としては大雑把であるため詳細な整備計画を作りその結果をもって料金シミュレーションを行う予定としている。

【齋藤委員】何かはその旨記載はされているか。

【水道総務課長】国の示す経営戦略やその見直しのタイミングが4～5年のスパンで見直すように求められている。

【齋藤委員】値上がりブームで上げるのが一概に良いわけではないが、経営が安定しているから料金改定しない旨話をしていくほうが良い。

【山田委員】現在のビジョンに4年に1度見直すといった文言はなかったか。

前回の料金改定時は、それまで料金改定についてほとんど議論がなかったため、反省点として定期的に見直して、必要に応じて料金改定すると申し合わせてビジョンか計画に示した記憶がある。そういった経緯もあるため改めて確認しておくのも良いかと思う。

【水道総務課長】検討は定期的に行っており、今後も続けていく。

【齋藤委員】次の代に引き継がれば良い。

【山田委員】首長の意向で料金改定が政治的に後回しになることが結果市民に対して大きな負担になる可能性があることを反省して、4年に1度見直すと決意を合意した経緯がある。

【齋藤委員】タイミングもあると思うが、基本的な考え方は続けていたほうが良い。

【水道総務課長】定期的な見直しのスパンとして具体的に書ければ入れるということが良いか。

【山田委員】目安としては4年。4～5年。

【齋藤委員】先ほどの値上げの話や人口も今がピークではないかと思う。人口が下がって、さらに節水による減収が見込まれるのでその時になって焦らないように心づもりの手段として残しておくのが良いかと思う。

【宮沢委員】今の意見であった記載の追加について賛成です。

【山田委員】4～5年に1度の料金見直しについて進めるといった文言を入れましょう。

【上下水道部長】中段の「料金改定が必要という結果が得られている。」の後に入れると通りが良いのではないか。

【山田委員】では、今の意見のとおりでお願いします。

それでは、今回、答申（案）について審議してきましたが、皆様からご意見いただいた内容を踏まえた上で、これを案として決定させていただくことにご異議ございませんでしょうか。

【委員一同】異議なし。

【山田委員】答申（案）については文言の修正で済みそうなので休憩時間に取りまとめさせていただいて、その答申をもって市長にお渡しする手続きを進めさせていただきます。なお、修正（案）を皆さんにご確認いただいてから手続きを進めていただく。

審議再開後、修正（案）を確認し、異議なしとなった。

#### 4 その他

【事務局】本日も審議いただきました答申書については、市長がこの場に参り、皆様の前でお渡しする格好となる。

また、これまでご審議いただいたビジョン及び中期経営計画につきましては、今後、パブリックコメントそして議会への説明を予定している。

意見がどの程度来るかにもよるが、3月末には決定して4月から新しいビジョンと中期経営計画となる。

【下水道課長】下水道課より次年度の予定をお話しさせていただく。次年度は料金の見直しを行うということで、なるべく早い時期に素案を皆様にお示ししたい。回数は4，5回を予定し、早ければ令和6年度の後半には料金の見直し、改定を目指してやっていきたい。今年度同様よろしく申し上げます。

5 閉会

上下水道部長より挨拶。

6 答申書受け渡し

同会議室内にて、山田会長より市長へ答申書の読み上げ、受け渡しが行われた。  
答申書を受け、市長より挨拶。